

	意見番号	意見概要	対応
戦略のターゲットについて	1	・ターゲットを絞ることは大切。柔軟性が高く若い層の経営者をまずターゲットにするべき。(山川委員、千田委員)	(アンケートNo.③) P25にターゲットを明記 「若手経営者や将来的に事業承継を予定している方等、柔軟な発想で新しい変革を求めている企業のトップ層を中心に連携を強化することで、対策のスピードアップを図ります。」
	2	・現状バイアスもある。変化に軋轢を生むことを恐れ、あきらめる人もいる。変わらないといけない層(経営者層)から優先にやるのが大事(小安委員)	
	3	・第三者から見てここが変わらないと三重県は変わらないという視点も大事(トップ層)(小安委員)	
	4	・企業経営者と一般県民を並べていることに違和感がある。経済分野に関することは、トップ層から制度を変えていくというのがアクション。一般県民は、価値観に関わってくる。(浅井委員)	第4回で提示 「アンコンシャス・バイアス等の解消に向けたターゲット別取組方向」を再整理 ※参考資料1
	5	・一般県民を対象とした時の優先順位としては、 ①今困っている人②今後困ることが想定される人。ずっとこのままでいいという方には、こういう事例もあるという発信をする。(浅井委員)	
目標値について	6	・他県との比較ではなく、北欧や欧米のグッドプラクティスをみてやるべき。(榊原委員)	第4回で議論 目標値に関する考え方を整理
	7	・KGI(経営目標達成指標)とKPI(重要業績評価指標)の2段階で取組を管理しては。(千田委員)	
	8	ジェンダー指数の1位(0.452)と46位(0.409)の差が、産業構造自体を変えていかないと変化できない部分なのか、いろいろな努力でできる部分なのかまで掘り下げて分析し、検討したほうがよい。(千田委員)	
環境整備・仕組み	9	・短時間正社員の仕組みを入れると良い。(小安委員)	(アンケートNo.⑫) P29「結婚や妊娠・出産、介護等、ライフステージに変化があってもキャリアが継続できるよう短時間正社員等多様な就労・勤務形態の導入促進」へ修正
	10	・女性のデジタルスキリングによる所得向上の施策を入れると良い。(小安委員)	(アンケートNo.⑪) P29「個人のスキルアップに向けたリスキング、リカレント教育の促進」の記載あり。
	11	・年収の壁などは、県から国への働きかけが必要。社会システムを変える必要がある。先進事例の企業のような仕組みを持っていない企業や変えられない企業は淘汰される。大企業より中小企業のほうが、機動力があるので、独自の制度を作っていくやすい。(浅井委員)	(アンケートNo.⑩) P17「国では、働き控えにつながっている「年収の壁」の見直しをすすめているが、働くことの意欲を促進し、働き方やライフスタイルの選択を阻害しない、税制、社会保障制度等の整備が必要である」の記載あり。
	12	・8時間を週5日、40時間働くというはめられた枠で働ける人のほうがむしろ少ない。それぞれのライフステージやライフリズムを意識しながら、柔軟に対応している企業に人は集まっている。一人ひとりの生き方・働き方に合ったフレームを準備する会社が増えるように、行政は支援できる制度設計にすると良い。(浅井委員)	(アンケートNo.⑫) P29「結婚や妊娠・出産、介護等、ライフステージに変化があってもキャリアが継続できるよう短時間正社員等多様な就労・勤務形態の導入促進」へ修正
	13	・行政の役割は、予算と条例である点は、非常に同意する。自分のペースで働ける環境を作ることと、同一労働、同一賃金が重要であり、労働時間というよりは、担った責任に対して適切な報酬が払われる仕組みづくりのためのルール整備をしてほしい。(国保委員)	(アンケートNo.⑩) P29「年齢や経験、性別等にとらわれない公平で客観的な評価制度、またはそれに伴う給与体系の整備を企業等が行うための支援」の記載あり。

三重らしさ・三重モデル	14	・三重県には、事業承継ネットワークがあり、後継者育成の取組が非常に充実しているため、レベルが高い中小企業経営者が増え、好循環につながっているのではないかと感じる。これは三重モデルとなるのでは。（国保委員、石坂委員）	第4回で議論 ジェンダーギャップ解消と後継者育成について整理
	15	・ジェンダー視点×後継者育成はより良いと感じる（小安委員）	
	16	・三重らしさである若い経営者とジェンダーギャップ解消との関係性が明らかになると良い。働きやすさにつながっていくことがロジック的に詰めていく必要がある。（千田委員、石坂委員）	
	17	・戦略3の両立支援については、三重らしさにつながるため、取り組んでいくことも大切ではないか。（山川委員、石坂委員）	
	18	・戦略2と戦略3は、裏と表でどちらも大事。両輪のような見せ方が良い。（石坂委員）	（アンケートNo.②） P25に「戦略2と戦略3を両輪として」との表現を追加
調査・データ分析	19	・事業所の労働条件の実態調査として、ジェンダーギャップを解消するために、仮説を立てて何の仕組みが足りないかを調査し、出口戦略へつなげるべき。（小安委員）	戦略策定後の進捗管理として実施
	20	・中小企業の先進的な事例を積み上げ、どういう効果をもたらしたか継続的に調査して、県が発信すべき。（千田委員）	戦略策定後の進捗管理として実施 P27に「県内企業の男女格差解消に向けた優良取組事例の情報発信」「先進的な職場文化を持つ企業や自治体の事例を共有・横展開するなど、誰もが活躍できる環境整備を進める企業等のネットワーク形成と連携強化」の記載あり
	21	・進んでいる企業の賃金格差がどうなっているかの調査が必要。（石坂委員）	戦略策定後の進捗管理として実施
	22	・三重県は、中小企業よりも従業員数が多い大企業のデータに引っ張られてしまう傾向が強いのではないかと感じる。（山川委員）	（アンケートNo.①） P4 三重県の企業規模別労働者の状況についてデータを追加 P7三重県の企業規模・産業別賃金格差の特徴を修正
	23	・企業規模別に賃金格差をしっかりと見る必要がある。（小安委員）	
	24	・中小企業にある説明できない格差について原因を把握すべき。（小安委員）	戦略策定後の進捗管理として実施
	25	・女性の事業承継が進まないのはなぜかの分析は必要。（国保委員、榊原委員、小安委員）	戦略策定後の進捗管理として実施
	26	・家事育児の男女差の課題をもっとデータで可視化して対応するべき。インタビューなどで解像度を上げる方法もある。（小安委員）	戦略策定後の進捗管理として実施
	27	・バイアスは教育と家庭で再生産される。これを分析しないと100年たっても変わらない。（三重と東北ではバイアスの内容も違うはず）（榊原委員）	（アンケートNo.④） P26戦略1の前文を修正
今後の議論が必要な課題等	28	・戦略3の両立支援については、もっと議論するべき。若い人にとっては、仕事と家庭がセットでないと変わらない。夫婦ともに仕事も子育ても一緒にやっていきたいと思いますと提唱するのであれば、保育の提供の仕方や家事支援サービスの仕方とかも相当変える必要がある。（榊原委員）	第4回で議論
	29	・三重らしさである若い経営者とジェンダーギャップ解消との関係性が明らかになると良い。働きやすさにつながっていくことがロジック的に詰めていく必要がある。（千田委員、石坂委員）【再掲】	第4回で議論 ジェンダーギャップ解消と後継者育成について整理
	30	・三重はアンコンシャスが強いのであれば、どう対応するかを考えるべき。例えば、製造業へのアプローチの仕方やスタートアップ等それ以外の産業を育てるなど。（浅井委員）	（アンケートNo.⑬） P29に「IT関連等、男女賃金格差等が少ない業種の企業の誘致を促進」の記載あり
	31	・教育の部分も長期的な視点を持って、言及してもいいのではないかと。（浅井委員）	（アンケートNo.⑤） P27の取組方向に記載あり
	32	・具体的に学校、親、地域へのアプローチが少し弱いのではないかと。（小安委員）	（アンケートNo.⑥） P27の取組方向に記載あり

	33	・男性の幸福度を上げるために、男性の働き方や負担感を軽くしてあげることも重要。（榊原委員、石阪委員）	(アンケートNo.⑦) P27及びP29に「男性の働き方改革の推進」などの記載あり
その他	34	・エッジが弱い。他県では、わかりやすい目標設定や取組を広げるためのストーリーの打ち出し、賃金格差の分析ツールを使用して実際に何を変えるかということを議論しながら取組を進めるなどしている。（小安委員）	第4回で議論
	35	・先駆取組事例集にあるような企業について、ターゲットとする若者に知ってもらうための情報発信についても、どのように知ってもらうのかを意識してアプローチしていくと良い。（浅井委員）	戦略策定後の施策として実施
	36	・戦略3の両立支援は、とても重要である。さらに、保育サービスや子育て支援サービスに関わっている方こそ、アンコンシャス・バイアスの解消が重要。（国保委員）	(アンケートNo.⑧) P27「子どもに身近な存在である教職員等が固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスを持たないよう研修等を実施」を追加
	37	・体験したり、見せたりということが若い人にはすごく大事なので、学校と企業の連携は重要である。（石阪委員）	(アンケートNo.⑨) P27「地域での職業体験や交流会の開催など子どもたちが多様なキャリア学ぶ機会の提供」の記載あり。
	38	・手を上げてきてくれる意識の高い層だけでなく、どこへ行きたいがわからない子たちへの働きかけも必要。（山川委員）	戦略策定後の施策として実施
	39	・上の世代の意識を変えるのはとても難しい。これまでやってこられたことを否定するのではなく、絶妙なバランスで、意識改革ではなく意識アップデートを対話を通して丁寧にやっていくことが必要（小安委員）	戦略策定後の施策として実施